

# 真・魅力通信

保幼こ小中一貫コーディネーター：奥村 崇志

## 第3回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会 **その2** ～実践発表から学んだこと“分散会での話合いより”～



8月2日（火）の第3回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会の後半は、22の小グループに分かれて分散会を行いました。研修会の前半で行った、園校の代表者5名の実践発表を受けて、その発表から学んだことや今後に生かしたいことなどを話し合いました。

また、「特別支援教育部」「心づくり部」「体づくり部」「学びづくり部」「生き方部」「授業づくり部」の6つの部会でそれぞれのテーマについて協議を進めました。



## ＜実践発表を受けて＞

- 改めて**幼児教育が土台**になることを感じた。学びづくり部会の取組として、幼児期の「話す」「聞く」に注目した**保育**を展開していきます。小中学校の先生と連携し、**就学前に必要な姿**についても協議していきたいと思いました。
- **発達段階に応じた姿が明確**になり、指導の仕方によい影響があるように思います。
- つながりを感じるとともに、より充実した連携・次のステージにつながるよう工夫したい。
- 今回は、園校で「主体性、自己有用感」を高める取組について**同じ方向に向かって進んでいる**ことがよく分かりました。
- 発表で出てきたキーワードが、普段から意識している言葉だったので、**学園としての繋がり**や方向性を改めて考えられた。
- 園児の**興味や関心から問題解決**する支援が印象的でした。
- 園で作ってきた土台を小学校でも生かしたいと思います。特に、子どもの**やってみたいという気持ちを尊重**していきたいと思います。
- 学園としてどんなことができるのかアイデアをもらうことができました。学園でも**同じ方向を向いて一貫教育を進めて**いきたいと感じました。
- 今以上に**子どもの力を信じて任せてもいい**のかもしれない。
- いろいろな段階の主体性を見させてもらい、**生きる力こそが主体的な姿**だと思いました。楽しいだけでなく、真剣な姿を通して、本当の豊かさや楽しさを感じていると思いました。

**保幼小中の発達段階に応じた「主体性」と「自己有用感」を育む実践**を知ること、今担当している子どもたちの成長に向けたよき関わり方のヒントが得られたと思います。令和4年度は、幼小中一貫教育の真化の年。キーワードを大切にしながら、職員一人一人が積極的に仕掛けていけるとよいと思います。それらは子どもたちに還元され、子どもたちの成長につながっていきます。

※袋井あやぐも学園のあゆみは、「袋井中学校ホームページ」を御覧ください。